



本態性振戦への集束超音波治療をいち早く導入



開頭手術の経験も豊富



迅速に提供できる脳血管内治療



脳神経外科部長・脳血管内治療主任部長・脳卒中センター長
大西 宏之

おおいし・ひろゆき●医学博士、大阪医科大学
床教育准教授、日本脳神経外科学会認定脳神経外
科専門医、日本脳神経血管内治療学会認定脳血管
内治療専門医ほか。

後、即座に診断をつけて治療に
移れるようになっていく。
治療においては「くも膜下出
血や脳出血では開頭手術を要す
ることもありますが、それも即
座に対応できます」と高橋賢吉
医師が語るように、複合的に高
度な内容を実施できることも、
注目すべき点だろう。その後の
フォローも手厚く、院内の回復
期リハビリ病棟の活用や、地域
の医療機関との連携で退院後ま
で途切れずリハビリテーション
を行い、機能維持・回復を目指
しているという。
救急以外の脳疾患治療も幅
広い。例えばくも膜下出血の予

地域におけるニーズが高い、
QOL(生活の質)を高める治
療にも注力している。高齢化
に伴って増加している脊椎脊
髓疾患を神経の病気と捉え、
脳神経外科の知識・技術で対
応しているのも、取り組みの一
つだ。内視鏡や顕微鏡を用い
なるべく筋肉を温存し、翌日
など、早期に動けるような手

防につながる未破裂脳動脈瘤
の治療として、従来のコイル塞
栓術と共に、大型の瘤も治療
できる最新のフロードライブ
ターステントも大阪医科大学
との連携で対応。もともと大
西宏之医師が同大学における
実施医であるために経験も豊
富で、ゆくゆくは同院にも導
入する予定だ。脳腫瘍手術も
数多く手掛けており、術中M
RIを活用することで、安全
性と精度を高めている。
**QOLにかかわる
疾患の治療にも注力**

こうした多様な治療を進める
にあたり、地域住民との信頼関
係を大切にしていると大西理事
長は語る。「内容が難しく理
解できないと思ったら遠慮せず
聞いていただければと思ってい
ます。それに応えられる医師で
あるべきでしょう」。人と人と
して、互いが信頼しあえる関係
を大切にしつつ、同院は地域を
支え続ける。取材/鈴木健太

術を心がけています」と久我院
長。他に、手の震えを引き起こ
す本態性振戦の最新治療である
集束超音波治療も実施。日常生
活に支障が出るほどの重症例を
対象とし、開頭手術をせずに症
状の改善を目指すという。
取材/鈴木健太



脳神経外科部長・手術部長
高橋 賢吉

たかはし・けんきち●医学博士、日本脳神経外科
学会認定脳神経外科専門医、日本脳神経血管内治
療学会認定脳血管内治療専門医ほか。



脳卒中や脳腫瘍、脊椎脊髄疾患、本態性振戦など、
多様な脳疾患の治療を地域で実践する

医療法人社団英明会

大西脳神経外科病院

受付時間: 8:30~11:30 / 13:30~16:30 休診日: 土・日・祝・年末年始
〒674-0064 兵庫県明石市大久保町江井島1661-1
TEL.078-938-1238 TEL.078-938-1236
http://www.onc.akashi.hyogo.jp/



理事長
大西 英之

おおいし・ひでゆき●医学博士、奈良県立医科大学
臨床教授。2000年12月に大西脳神経外科病
院を開設。日本脳神経外科学会認定脳神経外科專
門医。第7回バンパシフィック脳神経外科学会会
長、第18回日本脳神経外科学会会長ほか。

現在、日本では脳卒中・循環
器病対策基本法を制定し、脳卒
中や心臓病への対策に国をあげ
て取り組んでいる。その一つが、
脳卒中の救急体制であり、今後、
各地域で対応できる医療機関の
配置が進められていくという。
「2000年12月の開院から本
年で20年目を迎えます。その間、
患者第一で、大病院ではできな
いきめ細かな医療を常に心がけ
てきました」と、大西英之理事
長が語る姿勢で、地域の脳疾患
診療を担ってきた大西脳神経外

5名の専門医が在籍し
常に血栓回収療法が可能

主な手術症例数(2019年1月~12月)

脳卒中治療総数 1493件
●t-PA 33件 ●開頭手術 176件
●血管内治療 276件
脳動脈瘤 148件
破裂脳動脈瘤の手術総数 37件
●血管内治療 28件 ●開頭手術 9件
未破裂脳動脈瘤の手術総数 111件
●血管内治療 87件 ●開頭手術 24件
頸動脈狭窄症の治療総数 80件
●頸動脈ステント留置術 79件
●頸動脈内膜剥離術 1件
脳腫瘍切除術 86件
脊椎・脊髄変性疾患、外傷性脊髄損傷 183件
総手術件数 921件

科病院では、そうした脳卒中
を重点的に診られる体制を整
えてきた。
脳卒中の中でも特に重要な
のが、患者数の多い脳梗塞の
治療だ。血管が詰まる疾患で
あることから、原因となる血
栓を溶かすt-PAが登場し、
現在では直接取り除く血栓回
収療法が重視されている。同
院ではこの治療の経験豊富な
脳血管内治療専門医を5人揃
えている。「将来的に血栓回収
療法実施施設は24時間常に対
応できることが条件になると
考えています。それには最低
でも3人は必要です。5人で
あれば余裕をもって対応でき

脳卒中は、いかに早く治療す
るかが予後を左右することか
ら、病院をあげて救急受け入れ
から治療開始までの時間の短縮
にも取り組んできた。「脳神経
外科の単科病院ゆえに、全員が
同じベクトルを向いて治療にあ
たっており、受け入れから速や
かに検査・治療に入れます」と
大西宏之医師。その上で、救急
患者を脳外科医が直接診られる
体制の構築や、常に検査を可能
とする4台の専用MRIの設置
などを進めたことで受け入れ

脳卒中救急に迅速に対応し
退院までシームレスに治療



理事・院長・医務部長・脳神経外科主任部長・
回復期リハビリテーションセンター長
久我 純弘

くが、よしひろ●医学博士、日本脳神経外科学会
認定脳神経外科専門医、日本脳神経外科学会代議
員ほか。